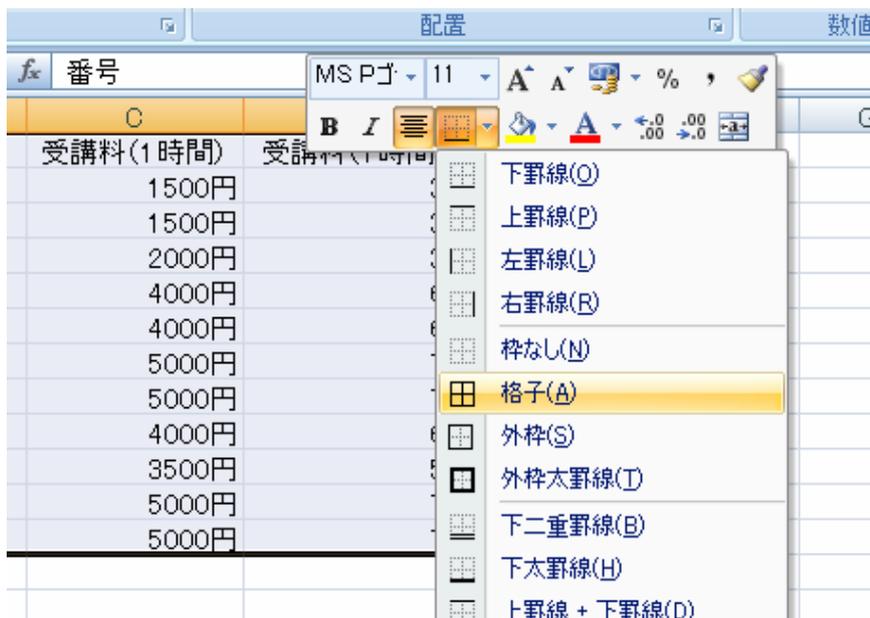


# Office2007 VLOOKUP関数使用方法

	A	B	C	D	E
1	番号	教科	受講料(1時間)	受講料(1時間出張)	
2	1	ワード	1500円	3000円	
3	2	エクセル	1500円	3000円	
4	3	パワーポイント	2000円	3500円	
5	4	アクセス	4000円	6000円	
6	5	フォトショップ	4000円	6000円	
7	6	イラストレーター	5000円	7000円	
8	7	CAD	5000円	7000円	
9	8	ドリームウィーバー	4000円	6000円	
10	9	HPビルダー	3500円	5000円	
11	10	FLASH	5000円	7000円	
12	11	ファイヤーワークス	5000円	7000円	
13					

1.入力したら、セル  
範囲を指定して、  
右クリック



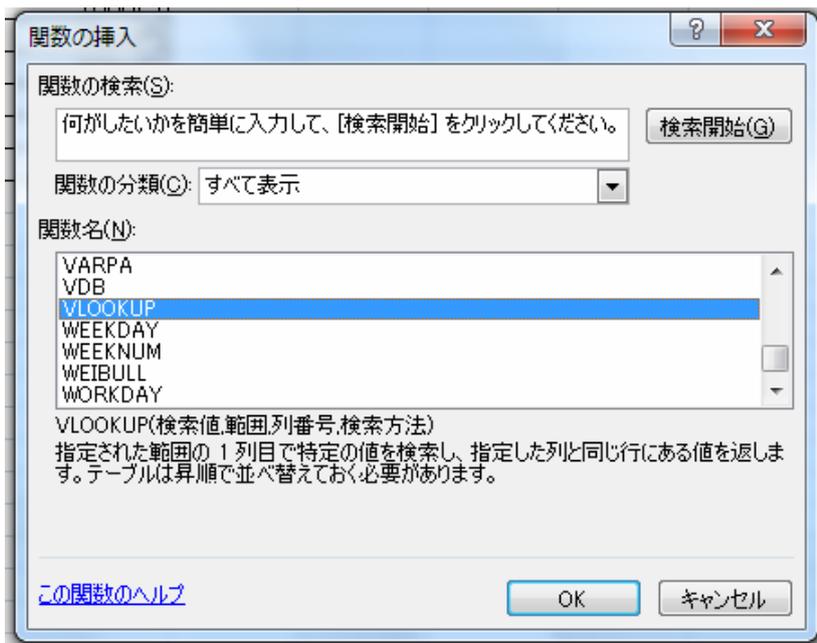
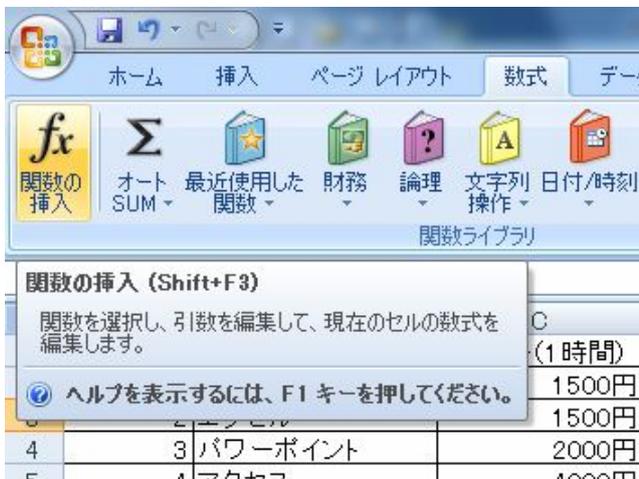
2.ミニツールバー  
が表示されるので、罫線から格子  
をクリック。

	A	B	C	D	E
1	番号	教科	受講料(1時間)	受講料(1時間出張)	
2	1	ワード	1500円	3000円	
3	2	エクセル	1500円	3000円	
4	3	パワーポイント	2000円	3500円	
5	4	アクセス	4000円	6000円	
6	5	フォトショップ	4000円	6000円	
7	6	イラストレーター	5000円	7000円	
8	7	CAD	5000円	7000円	
9	8	ドリームウィーバー	4000円	6000円	
10	9	HPビルダー	3500円	5000円	
11	10	FLASH	5000円	7000円	
12	11	ファイヤーワークス	5000円	7000円	
13					

B	C	D	E	F	G	H	I
教科	受講料(1時間)	受講料(1時間出張)					
	1500円	3000円					
	1500円	3000円		1			
ポイント	2000円	3500円					
	4000円	6000円					
アップ	4000円	6000円					
メーカー	5000円	7000円					

E	F	G	H	I
	1			

3.任意のセルをアクティブにし、数式から、関数の挿入をクリック。



4.関数の挿入ダイアログが表示されるので、VLOOKUPを選ぶ。

	A	B	C	D
1	番号	教科	受講料(1時間)	受講料(1時間出張)
2	1	ワード	1500円	3000円
3	2	エクセル	1500円	3000円
4	3	パワーポイント	2000円	3500円
5	4	アクセス	4000円	6000円
6	5	フォトショップ	4000円	6000円
7	6	イラストレーター	5000円	7000円
8	7	CAD	5000円	7000円
9	8	ドリームウィーバー	4000円	6000円
10	9	HPビルダー	3500円	5000円
11	10	FLASH	5000円	7000円
12	11	ファイヤーワークス	5000円	7000円
13				

**関数の引数**

VLOOKUP

検索値  = 1

範囲  = {1,"ワード",1500円,3000円;2,"エクセル",1500円,3000円;3,"パワーポイント",2000円,3500円;4,"アクセス",4000円,6000円;5,"フォトショップ",4000円,6000円;6,"イラストレーター",5000円,7000円;7,"CAD",5000円,7000円;8,"ドリームウィーバー",4000円,6000円;9,"HPビルダー",3500円,5000円;10,"FLASH",5000円,7000円;11,"ファイヤーワークス",5000円,7000円}

列番号  = 2

検索方法  = FALSE

数式の結果 = "ワード"

[この関数のヘルプ\(H\)](#)

検索値	<input type="text" value="F3"/>	=	1
範囲	<input type="text" value="\$A\$2:\$D\$12"/>	=	{1,"ワード",1500円,3000円;2,"エクセル",1500円,3000円;3,"パワーポイント",2000円,3500円;4,"アクセス",4000円,6000円;5,"フォトショップ",4000円,6000円;6,"イラストレーター",5000円,7000円;7,"CAD",5000円,7000円;8,"ドリームウィーバー",4000円,6000円;9,"HPビルダー",3500円,5000円;10,"FLASH",5000円,7000円;11,"ファイヤーワークス",5000円,7000円}
列番号	<input type="text" value="2"/>	=	2
検索方法	<input type="text" value="false"/>	=	FALSE
		=	"ワード"

5. 検索値にF3、範囲に\$A\$2:\$D\$12、列番号に2、検索方法にfalseと入力する。

E	F	G	H	I
	1	ワード		

6. G3のセルにワードと入力されました。

7. 検索値とは、F3のセルの番号1のことです。

範囲とは、A2セルから、D12セルまでのことです。

\$マークで、挟まれているのは、絶対参照で、セル範囲を固定することを指します。絶対参照は、F4キーで、設定できます。(範囲を選択してからF4キーを押すと、上記のように表示される。)

絶対参照とは、ここから、ここまでのセル範囲を絶対的に参照する(固定する)という意味があります。

(※反対に相対参照という言葉もあります。)

列番号に2を入力したのは、教科の列が、番号の列より、2番目にあるからです。

検索方法にfalseを入力したのは、検索値が完全に一致するデータがある場合データが抽出されるために、入力しました。(False=0でも、OKです。エラー値の場合、[#N/A]が戻り値として返されます。)

8. それでは、実践問題として、列3番目の授業料(1時間出張)の値を関数を用いて、値を出してみましょう。

検索値	F3		= 1
範囲	\$A\$2:\$D\$12		= {"ワード",
列番号	3		= 3
検索方法	false		= FALSE
			= "1500円"

9. 以上が、答えになります。

検索値・範囲・検索方法は先ほどと一緒にですが、列番号だけは、番号の列から、3番目の列を参照するので、3と入力します。

E	F	G	H	I
	1	ワード	1500円	

10. H3に1500円と表示されました。

11. 次に、F3に2、3、4、5、6、7、8、9、10、11と入力してみましょう。

E	F	G	H	I
	2	エクセル	1500円	

E	F	G	H	I
	7	CAD	5000円	

12.このように表示されました。

13.お分かりですか、VLOOKUP関数とは、検索するための関数なのです。